

ふりがな

くほ てつじ

氏名

久保 哲司

1. 学歴

- 1980年3月 東京大学文学部第3類ドイツ語ドイツ文学専修課程卒業
1980年4月 東京大学大学院人文科学研究科独語独文学専門課程修士課程入学
1983年3月 同課程修了
1983年4月 東京大学大学院人文科学研究科独語独文学専門課程博士課程進学
1984年3月 同課程退学
1984年10月 ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学（フランクフルト・アム・マイン）
ドイツ語ドイツ文学専攻入学
1987年3月 同大学退学

2. 職歴・研究歴

- 1984年4月 東京大学文学部助手
1987年4月 高知大学人文学部講師
1992年4月 一橋大学法学部助教授
1996年4月 一橋大学社会学部助教授に配置替え
2000年4月 一橋大学大学院社会学研究科助教授に配置替え
2001年10月 一橋大学大学院社会学研究科教授

3. 学内教育活動

(A) 主な担当講義名

(a) 学部学生向け

ドイツ語、教養ゼミナール、社会と文化、社会文化論原典講読D

(b) 大学院

文芸思想研究、ヨーロッパ思想史

(B) ゼミナール

ゼミナール（3年）、ゼミナール（4年）、演習（大学院）

4. 主な研究テーマ

19世紀後半から20世紀にかけてのドイツ語圏の文学・思想、とくにヴァルター・ベンヤミン

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

・『衰しき恋を味わう——ドイツ文学のなかの〈ダメ男〉』, NHK 出版, 2016

- ・ Diana Beier-Taguchi／久保哲司『名作イージーリーダー』, 朝日出版社, 2015 (全頁共著)
- ・ 一橋大学社会学部編『人と社会 つながりの再発見』(共著), 彩流社, 2009 (分担部分: 感性と社会—ベンヤミンの文学・芸術論に見るその関係, p.159—197)
- ・ 久保哲司／Andrea Raab『心に刻まれるドイツ語』, 朝日出版社, 2008 (全頁共著)
- ・ 『KAWADE 道の手帖 ベンヤミン』(共著), 河出書房新社, 2006 (分担部分: ベンヤミンと『戦艦ポチョムキン』—芸術, 技術, 傾向, p.114—119)
- ・ 柴田翔編著『はじめて学ぶドイツ文学史』(共著), ミネルヴァ書房, 2003 (分担部分: 第6章 大都市と大衆の時代, p.191—238)
- ・ 『ドイツの言語文化』, 放送大学教育振興会, 2002
- ・ Josef Fümkäš/Peter Richter/Ralf Schnell/Shigeru Yoshijima(Hrsg.): Das Verstehen von Hören und Sehen. Aspekte der Medienästhetik (共著), Bielefeld: Aisthesis 1993 (分担部分: Das Ende der schönen Kunst. Zu Walter Benjamins Medientheorie, p.39-51)

(b) 論文

- ・ 「ベンヤミンと写真」, 『ユリイカ』第34巻第15号(2002.12), p.160—165
- ・ 「絵の中に消える中国の画家—E・ブロッホ, ベンヤミン, アドルノ, ホーフマンスタールにおけるひとつのモチーフ—」, 『一橋論叢』第124巻第3号(2000.9), p.373—389
- ・ „Stufen der Schönheit bei Walter Benjamin“, Hitotsubashi Journal of Arts and Sciences, Vol. 39 (1998), No. 1, p.21—27
- ・ „Benjamins Blick auf Nietzsches Dionysik“, Hitotsubashi Journal of Arts and Sciences, Vol. 37 (1996), No. 1, p.25-30
- ・ 「個と集合—ジンメル・クラカウアー・ベンヤミンにおけるモデルネー」, 『一橋論叢』第109巻第3号(1993.3), p.360—377
- ・ 「後期ベンヤミンにおける解釈の理論—ボードレー論注釈—(3)」, 『高知大学学術研究報告』第40巻人文科学分冊(1991), p.183—195
- ・ 「後期ベンヤミンにおける解釈の理論—ボードレー論注釈—(2)」, 『高知大学学術研究報告』第39巻人文科学分冊(1990), p.383—394
- ・ 「後期ベンヤミンにおける解釈の理論—ボードレー論注釈—(1)」, 『高知大学学術研究報告』第38巻人文科学その1(1989), p.249—260
- ・ 「「神学」から「人間学」へ—中期ヴァルター・ベンヤミンにおける「世俗化」過程についての一考察」, 東京大学文学部ドイツ文学研究室詩・言語同人会『詩・言語』第28号(1986.11), p.1—31
- ・ 「思考のロゴスとエートス—初期ヴァルター・ベンヤミンの批評理論の形成におけるその言語観・認識観・真理観の意味(一)」, 東京大学文学部ドイツ文学研究室詩・言語同人会『詩・言語』第27号(1986.6), p.65—103

(c) 翻訳

- ・ ヴァルター・ベンヤミン著, 浅井健二郎編訳, 久保哲司／土合文夫訳『パリ論／ボードレー論集成』, 筑摩書房, 2015 (担当箇所合計 526 p.)
- ・ ヴァルター・ベンヤミン著, 浅井健二郎編訳, 久保哲司他訳『ベンヤミン・コレクション7 〈私〉記から超〈私〉記へ』, 筑摩書房, 2014 (担当箇所合計 84 p.)
- ・ ヴァルター・ベンヤミン著, 浅井健二郎編訳, 久保哲司他訳『ベンヤミン・コレクション6 断片の力』, 筑摩書房, 2012 (担当箇所: p.555-687)
- ・ ヴァルター・ベンヤミン著, 浅井健二郎編訳, 久保哲司他訳『ベンヤミン・コレクション5 思考のスペクトル』, 筑摩書房, 2010 (担当箇所合計 198 p.)

- ・ハワード・ケイギル他著『ベンヤミン』, 筑摩書房, 2009
- ・ヴァルター・ベンヤミン著, 浅井健二郎編訳, 久保哲司他訳『ベンヤミン・コレクション4 批評の瞬間』, 筑摩書房, 2007 (担当箇所合計 189 p.)
- ・ライナー・ハーバーマイアー著, 古澤ゆう子/三瓶裕文/久保哲司/武村知子訳「私たちの愚かさについて」『言語文化』 通巻 43 号 (2006), 一橋大学語学研究室, p.53-81 (全頁共訳)
- ・ヴァルター・ベンヤミン著, 久保哲司編訳『図説 写真小史』, 筑摩書房, 1998
- ・ヴァルター・ベンヤミン著, 浅井健二郎編訳, 久保哲司訳『ベンヤミン・コレクション3 記憶への旅』, 筑摩書房, 1997 (担当箇所合計 225 p.)
- ・ヴァルター・ベンヤミン著, 浅井健二郎編訳, 久保哲司他訳『ベンヤミン・コレクション2 エッセイの思想』, 筑摩書房, 1996 (担当箇所合計 136 p.)
- ・ライナー・ハーバーマイアー著, 久保哲司/三崎和志訳「若きベンヤミンの歴史神学」, 『一橋論叢』 第 115 巻第 3 号 (1996.3), p.668-688 (全頁共訳)
- ・ヴァルター・ベンヤミン著, 浅井健二郎編訳, 久保哲司訳『ベンヤミン・コレクション1 近代の意味』, 筑摩書房, 1995 (担当箇所合計 280 p.)
- ・アントワヌ・ベルマン著, 大西雅一郎/久保哲司訳「翻訳の思弁的理論」, 『批評空間』 第 1 巻第 12 号 (1994), p.108-127 (全頁共訳)
- ・カール・ハインツ・ボーラー著, 久保哲司訳「ボードレールの「無限」のメタファー」, 『ユリイカ』 第 25 巻第 11 号 (1993.11), p.134-143.

B. 本研究科着任後の研究活動 (着任 1992 年)

(a) 国内外学会発表

- * 「ベンヤミン〈アウラ〉論の現在」, ワークショップ「20 世紀フランス文学と写真」, 2010.11.6, 東京大学
- * „Stufen der Schoenheit bei Walter Benjamin“, 日本独文学会春期研究発表会, 1998.6.6, 中央大学
- * „Benjamins Blick auf Nietzsches Dionysik“, 日本独文学会春期研究発表会, 1996.5.11, 明治大学
- * 「大都市とモデルネの文化ーベンヤミン・ジンメル・クラカウアー」, 日本独文学会秋期研究発表会 シンポジウム「W. ベンヤミンにおけるモデルネの経験とわれわれの現在」, 1992.10.7, 筑波大学

(b) 国内研究プロジェクト

- ・文部科学省科学研究費補助金, 「「文学の悪」再考ー価値崩壊時代の人文リテラシーとテキスト・モラル」(研究分担者), 文部科学省, 2016-2018
- ・文部科学省科学研究費補助金, 「ヨーロッパの文学・思想における未来選択の位相」(研究分担者), 文部科学省, 2013-2015
- ・文部科学省科学研究費補助金, 「ヨーロッパの文学・思想継承における歪曲の系譜」(研究分担者), 文部科学省, 2009-2011
- ・文部科学省科学研究費補助金, 「EU における言語問題と言語文化」(研究分担者), 文部科学省, 2005-2008
- ・文部省科学研究費補助金, 「文学表現と<身体>ードイツ文学の場合」(研究分担者), 文部省, 1999-2002
- ・文部省科学研究費補助金, 「再統一ドイツと国民的自己像の再編ー言説分析的基礎研究」(研究分担者), 文部省, 1995-1997
- ・文部省科学研究費補助金, 「文学表現と<メディア>ードイツ文学の場合」(研究分担者), 文部省, 1995-1997
- ・文部省科学研究費補助金, 「ドイツ文学における<批評>の展開」(研究分担者), 文部省, 1993-1994

6. 学内行政

(B) 学内委員会

- ・入学者選抜実施専門委員会委員 (2019.4-2021.3)
- ・一橋大学社会貢献委員会委員(2018.4-2020.3)
- ・語学研究室長(2014.4-2016.3)
- ・語学研究室運営委員・幹事(2012.4-2014.3)
- ・一橋ジャーナル編集委員会委員(2012.4-2014.3)
- ・社会学研究科人事計画策定委員会委員(2011.4-2014.3)
- ・LL 委員会委員(2010.4-2012.3)
- ・社会科学古典資料センター専門委員会委員(2010.4-2012.3)
- ・附属図書館委員会委員(2010.4-2012.3)
- ・一橋ジャーナル編集部員(2008.4-2010.3)
- ・附属図書館委員会委員(2006.4-2008.3)
- ・教養教育図書選定専門委員会委員(2006.4-2007.3)

7. 学外活動

(a) 他大学非常勤講師など

東京女子大学 (非常勤講師), 東京大学 (非常勤講師), 高知大学 (非常勤講師), 東京学芸大学 (非常勤講師), 放送大学 (客員助教授, 客員教授, 非常勤講師), 明治大学 (非常勤講師)

(b) 所属学会および学術活動

日本独文学会

(c) 公開講座・市民講座

- ・「感性と社会～文学作品に見るその関係」, 一橋大学社会学部連続市民講座「『つながり』の《再》発見～人と社会のコミュニケーション」第5回, 2008.9.20
- ・「大都市の愛・リゾートの恋」, 一橋大学公開講座「ヨーロッパにおける恋愛観の変遷」第4回, 2000.10.21

9. 一般的言論活動

- ・「哀しき恋を味わう ドイツ文学のなかの〈ダメ男〉」, NHK ラジオ第2放送 番組「こころをよむ」, 2016.10.2-2016.12.25 (全13回)
- ・(書評) アントワーヌ・ベルマン著『翻訳の倫理学』(晃洋書房,2014), 『図書新聞』 通巻3178号,2014.10.11
- ・(書評) ヘルベルト・ハフナー著『巨匠フルトヴェングラーの生涯』(アルファベータ,2010), 『HQ』 通巻30号,2011.4
- ・(書評) 高橋順一著『ヴァルター・ベンヤミン解説』(社会評論社,2010), 『週刊読書人』 通巻2840号,2010.5.28
- ・(書評) 細見和之著『ベンヤミン「言語一般および人間の言語について」を読む』(岩波書店,2009), 『週刊読書人』 通巻2784号,2009.4.17
- ・(書評) スーザン・A. ハンデルマン著『救済の解釈学』(法政大学出版局,2005), 『週刊読書人』 通巻2583号,2005.4.15
- ・(書評) 前川修著『痕跡の光学』(晃洋書房,2004), 『週刊読書人』 通巻2541号,2004.6.18